能北新聞
秋田県能代市[illegible]
編集　新聞委員会[illegible]
発行　能代北高[illegible]
印刷所　[illegible]

ロープ切れないかな

5月4日に全校遠足が行なわれた。1年生は小友沼、2年生は目名潟山、3年生は素波里ダムへ行った。前日までぐずついていた空も「思いっきり遊べ」といわんばかりにカラリと晴れ上がった。写真は3年生がアスレチツクフィールドで遊んでいる様子である。高い所にあがって気持ちよさそうネ。

生徒会予算　有効に使おう

5月7日の生徒総会で今年度の生徒会予算案が承認された。昨年度は生徒会費の値上げが問題になっていたが、今年度から450円に値上げされた。このため今年度の予算総額は急増している。

総額二百八十二万円アップ　査定で七部門は減額

今年度の生徒会予算審議は四月十六日に行なわれた各委員会・部に対する説明会から始まり、五月二日に中央委員会で予算案を承認、七日の生徒総会で、六款の八項目（バドミントン）以外の部門について承認された。

バドミントンについては五月七日の職員会議で、同部の昨年度の十四万五千九百円から今年度三十二万千二百円と一挙に二倍以上になっているのは問題があるとされたためである。これについては五月九日に同部の顧問と生徒会関係の先生と生徒会執行部で話し合われ、十三日に中央委員会で審議した結果、今年度の予算は二十四万四千七百円となった。

今年度の生徒会予算は総額七百四十五万円で昨年度より二百八十二万千三百二十八円増えている。

これにともない、各委員会、部の予算も昨年度より増えているが、部員の増加にともないタイプライターを購入するという英語クラブや、手話の本を購入するというJRCは増加率からみると著しい。

慶弔費もあがる

また執行部は予算を組むにあたり、慶弔費の値上げと生徒に還元される部門の予算を重んじるという姿勢をとったが、新聞、生徒会誌、さらに、生徒指導用の腕章を作りたいという風紀委員会の予算の値上げが認められ、この点は達成されたようである。

ほとんどが値上げした中で、応援委員会、生花、写真部など七部門が昨年度より減少しているが、これらの委員長・部長に話をきいてみると、昨年度必要なものを買ったので今年度はそれでまにあわせるからということと、昨年度は予算が余ったからとの説明である。

しかし、どこもギリギリの査定で苦しいとのことだった。

会計の三瓶さんに昨年度の反省と各部門の予算執行に対する要望をきいてみた。「昨年度は年度末になってあわてて使ったり、予算がどれだけあるのか、何に使われているのかが全くわからない委員会や部が多かったので、今年度は計画どおりの物を早めに購入し、帳簿をつけるなどして有効に使ってほしい。」といっていた。

また予算審議の過程で前提となるべき自己負担の限度や、文化部と運動部の予算配分の問題などについて、将来は姿勢を確立しなければならないと思われる。

小さなデータ
5月3日から3日[illegible]
勉強時間は
①0時間
②1～3時間
③3～6時間
④6時間以上
対象
回答率82%、7日[illegible]

土崎校長先生　遊びにいらっしゃい

魚釣りが好きですネ

土崎十一（じゅういち）新校長に、北高の印象などを伺った。

——大正十一年生まれなので「十一」と名づけたそうです。

——校地は狭いけれども、建物は立派ですね。女性だけの学校は初めてですが、制服はきっちりしていて、感じがいいですな。（微笑されて）

——さかな釣りや盆栽、なんでもやってみることが好きです。にぎやかな町より山や川が好きです。

——今は、校長公舎でひとりです。時々、家の方から食事を心配して電話をかけてくるんですよ。（少しはにかまれて）

——六十年の伝統に固執せず、よいところはよいままで、そんな意味で引き継いでいきたいです。

——親を責めるはずのがいい青春ですね。今は規制されたり苦しくても、それに耐えていったら、我が青春はよかった、と思えるだろうね。そうなってほしいですな。

校長先生は、「お茶でもだせばよかったが」と気を使ってくださった。なお、生徒のみなさんの話が聞きたいので、ぜひ校長室へ遊びに来てください、とのこと。

―耳鼻科校医―　宍戸先生に代わる

本校の耳鼻咽喉科担当の校医だった渡辺雄一先生が、四月六日におなくなりになった。先生は、これまで、やはり本校の校医をしておられた先代の後を継がれて、六年間お世話してくださっていた。

渡辺先生が、おなくなりになったため、本校では、医師会に後任の先生を推薦してもらったところ、能代市西通町で開業している、宍戸耳鼻咽喉科医院の宍戸五郎先生を紹介された。そして、県教育委員会からも許可がおり、五月一日付で、本校の校医が決まった。

これにともない今まで延期されていた耳鼻科検診は、六月九日が一年生、三年生が十五日、二年生が十七日の、それぞれ一時からと予定されている。

卒業生の進路　進学率が六十六%に　県外就職はへる傾向

昭和五十一年度の卒業生四一四名の進路は、進学者は二七三名で全体の六六%（昨年は五七%）、就職者は一一〇名の二七%、その他（浪人など）三一名であった。

昨年度の大学進学者は一九一名で、学部別にみると、例年どおり教員養成学部が二一名で一番多く次いで人文科学系が十八名だった。

また主な合格校は、秋田大が十三、新潟大七、都留文科大三、弘前大、筑波大、上智大、立教大各一、他に聖霊短大、実践女子短大などだった。

昨年度の特色としては「国公立・私立大学とも合格校の内容が充実していて、希望する学校へ入学できた人が多かった」と進学担当の加賀谷先生は言っておられる。

次に、養成所・各種学校では、看護学校四十六名で一番多く、次いで服装・医療技術・保育・養護教諭の順であった。

また、就職者は県内四五名、県外六五名の計一一〇名で、主な行き先は、県外では関東地方が多く日本電機、トヨタ自工、川崎製鉄などで、県内では、銀行や病院への就職が目立った。

その特色を、就職担当の安原先生は「景気に左右される高校生の就職戦線だが、予想より求人数が多く、自動車・家電への就職が良く決まった」と語られた。

昨年度の進路状況から、今年の三年生へのアドバイスを両先生にたずねてみた。

まず、大学進学者へ。「進路方向を早く決め、国公立は科目数が多いので、計画は細かく持続性のあるものをたてる。また、私立は三教科の場合、失敗する率が多いことを考えてムラなく掘り下げた勉強をすること」

各種学校への進学の場合、「目的意識をはっきり持ち、資料などでよく調査して学校を決めること」

就職希望者へは、「不況下では就職はきびしいものとなるので、楽観的な気持ちは禁物、毎日の学習と人間形成に努力すべきである」とのことだった。

進路状況

種別	人数
国立大	22
公立大	3
公立短大	10
私立大	43
私立短大	99
養成所・各種大	82
就職	110
その他	31
合計	414

入部者増える　クラブ登録

四月十五日のクラブ登録の結果によると、全校生徒の約七一・四%にあたる九一二名が入部していた。昨年に比べて一一九人の増加であった。これは、何かをやってみようという意識が強まり、種類が多く、個性が生かせる文化系クラブが増えたものと思われる。

昨年までは茶道、調理、生花など、いわゆる「女の子らしい」クラブへの入部者が多かったのに対し、今年は種々多様であった。特に入部者が増加している写真部長の小松享子さんは、「部員はポスターで募った。」英語部長の保坂聖子さんは、「クラブ勧誘会の演説がよかったと思う。」ということだった。点訳クラブでは備品の数に制限があって、大幅な入部は認められない事情があったようだ。

しかし、生花クラブ長の浅野光子さんは、「部員はよく集まってくれるのだが、部員数に対して花器が少なく、教室が狭くて困っている。」写真部では、教室が化学部と一緒なのでやりにくいとのことだった。

また、特に二、三年生は補習が連日行われて、クラブ活動がしにくいようだ。この点は、将来にわたって深刻な問題であり、各クラブでよく検討する必要がありそうだ。

応援委員会では、応援隊形に必要な最低の人数が二十名なのに対し、現在の部員は十五名である。「人数が少ないと、みんなで声を出し合っても他校より迫力が出ない。今からでもぜひ入部してほしい。」と、委員長の工藤玲子さんも言っている。

クラブ登録の結果
（ ）は入部数

	昨年度	今年度
1	点訳(61)	茶(53)
2	茶(49)	写真(47)
3	JRC(36)	英語(40)
4	珠算(32)	点訳(40)
5	調理(31)	吹奏楽(40)
6	生花(28)	無線など(38)

	昨年度	今年度
文化	630	753
運動	163	159
登録人数	793	912
全校生徒	1,277	1,268

（4月20日現在）

論説　頼りになる先輩に

[illegible]年生は[illegible]ていない」と[illegible]が開かれるが、どうなろうか。

集会を例にとってみると、上級生になるにしたがって集まりが遅く、集まってもなかなか整列せず、係りの生徒の注意も、「私には関係なし、勝手にやってよ」といった具合だ。それをみている一年生も「よくないとは思っているけど上級生もしてるし…」このようなことが集会に限らずある。

北高生がいちばん先輩・後輩[illegible]は、「親しく交わることは交わっても、先輩・後輩のけじめはつけるべきだ。また後輩についてきてもらうには、それなりにしっかりしていなければならないと思う。」といっていた。また同クラブの一年生の岸部幸子さんは、「なんでも教えてくれるし、とにかく何でも追いつけ追い越せの状態、先輩にかわいがられるようになりたい」と、先[illegible]

[illegible]先輩・後輩という自覚は全くといってよいほどないのである。

全校生徒が千二百六十八名とあまりに多いこともあるだろうが、それにしても「たて」のつながりがあまりに淡泊すぎやしないだろうか。

北高生の上級生は「下級生よ、私のとおりにしなさい。」といえる気がまえと実力をそなえてほしいものである。

「合唱」と「能楽鑑賞」の二つに決定

文化委員会では、今年の芸術鑑賞に、能楽鑑賞と音楽鑑賞の二つを取り上げることに決定した。

音楽鑑賞は六月二十四日に、東京放送合唱団による合唱が開かれる予定である。今回は、指揮者、ピアノ伴奏者を含め、二十五名で編成されている。

指揮者の国分誠氏、ピアノ伴奏者の高野雅子さんは、いずれも有名な方たちである。

また、能楽鑑賞は七月十九日に大蔵流山本東次郎師一門により、狂言が上演される。全二時間にわたるもので、能についての解説なども加わっている。山本東次郎師は、故先代東次郎の長男、後継者の大蔵流狂言師で、また、重要無形文化財でもある。

新任・離任の先生がた

四月一日付けで新任・離任なさった先生は、次のとおりです。

新任の先生
半田久雄先生（秋田養護学校から）
清水新昌先生（能代高から）
鈴木豊治先生（能代工から）
牧野尚信先生（能北定から）
宮腰功朔先生（能代商から）
信太和子先生（二ツ井高から）
小林勝平先生（二ツ井高から）
薩摩光明事務長（能代工から）

離任の先生
小金沢吉治校長（退職）
松渕要事務長（退職）
長崎幸作先生（能代工へ）
木村喜之先生（五城目高へ）
智田延輝先生（能代商へ）
秋元正英先生（能代高へ）
古井和子先生（秋田聾学校へ）
畠山鶴枝先生（大館鳳鳴高へ）
笹渕兼一先生（増田定時制へ）
山本美由貴先生（米内沢高へ）

新任の先生がた、お世話になります。離任の先生がた、お世話になりました。